

“唾液研究”の第一人者が語る

# 子どもの「唾液」と 全身の健康のメカニズム



渡部 茂 先生

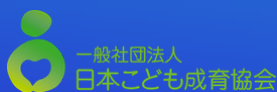
小児歯科学・朝日大学理事

2019年イグ・ノーベル賞  
● 化学賞受賞 ●

2026 7/5 (日)  
10:30~13:00

親子が通い続けたいくなる!

あらためて、歯科が注目すべきアプローチ!



ZOOM配信

Q&Aあり

アーカイブ配信あり

## ■7月5日(日)当日のタイムライン

10時25分 ZOOMオープン

10時30分 **スタート**

ごあいさつ

10時40分 渡部茂先生講演 (60分)

「子育ての構え - 口腔の健康と唾液 -」

11時40分 Q&Aセッション (40分)

渡部茂先生・沢井佳子先生・クロストーク

12時20分 クリニックへの落とし込み (30分)

ママとあかちゃんを集める3つのポイント

日本子ども成育協会 大塚千夏子

12時50分 アンケート回答

あいさつ：渡部先生・沢井先生

13時00分 終了 (終了時間は目安です)

※講演内容/時間構成は変更になる可能性があります

## ■渡部先生講義：当日お伝えすること

「子育ての構え - 口腔の健康と唾液 -」

### 1) 唾液の知られざる働き

5歳児の唾液量研究から見てきたこと

1. 口腔内希釈のメカニズム
2. 口腔のpHコントロール  
かつての常識との違い：歯磨きのタイミングなど
3. 口腔内環境差

### 2) なぜ歯科が「生まれる前から」子どもにかかわるのか？

「親と子」の愛着形成の専門機関になる、  
という未来に向けて

1. 口腔の発達・発育  
一親に伝えるチャンスは「生まれる前」
2. 生まれてからすぐの栄養  
一無歯顎期から歯科が積極的に介入する理由
3. 歯の萌出から変わる  
一咀嚼・舌・嚥下の世界
4. 口腔細菌は伝播するもの  
一歯科が予防と口腔育成をリードする意義

### 3) Q&Aセッション

日本子ども成育協会理事・子どもの認知発達の専門家 沢井佳子がモデレーターとして参加者からの質問をピックアップし、渡部先生に投げかけます。子どもの専門家と口腔の専門家のクロストークによって、子どもの診療・来院機会に「唾液」の知見をどのように活かすのか、また、「子どもの口腔の健康と生涯の健康」を支える「クリニック」の未来像について探ります。

## ■参加費

一般：7500円

メールマガジン読者特典価格 5000円

他、各種特典チケットでお申し込みください。



※表示価格は税込みです

※お申し込みフォームのメールアドレスに  
ZOOMおよびアーカイブ視聴のご案内をお届けします

## ■渡部 茂先生 略歴

1977年岐阜歯科大学（現朝日大学歯学部）卒業。1985年北海道医療大学准教授。

1985～87年マニトバ大学客員教授、

1995年明海大学歯学部大学院教授。定年退職後同大学名誉教授。

同大学保健医療学部教授。

現在株式会社春日井製菓研究顧問、学校法人朝日大学理事。

専門は小児歯科学で、日本小児歯科学会副理事長。日本小児保健協会監事。日本子ども学会理事。

日本障害者歯科学会理事。埼玉県小児保健協会会長。日本小児口腔外科学会理事。

日本歯科薬物療法学会理事。千葉県学校保健学会理事等を歴任する。

2015年には日本子ども虐待防止歯科研究会を設立。会長に就任し、

歯科領域から子ども虐待防止に取り組む。

2017年日本小児歯科学会賞。2019年イグ・ノーベル賞化学賞受賞。

著書：唾液 口腔の健康を支えるメカニズム（クロスメディア パブリッシング、アマゾン）。

やさしく学べる子どもの歯（診断と治療社）。Macro to Nano Spectroscopy, J. Uddin ed,

(INTECH)。訳書：「唾液 歯と口腔の健康」監訳（医歯薬出版、アマゾン）など出版多数。



### <イグ・ノーベル賞とは>

イグ・ノーベル賞は、アメリカ・ハーバード大学周辺の科学ユーモア誌『Annals of Improbable Research』によって創設された国際的な賞で、「人々を笑わせ、そして考えさせる研究」に贈られます。

一見ユニークで思わず笑ってしまうテーマでありながら、その背景には独創性や高い学術性があり、既存の常識に新しい視点を与える研究が選ばれています。授賞式にはノーベル賞受賞者も参加し、世界中の研究者から注目されています。

渡部茂先生は、それまで研究データの無かった「子ども（5歳児）の1日あたりの唾液分泌量」を測定した研究により、2019年に化学賞を受賞されました。

## ■渡部茂先生メッセージ

皇帝ペンギンの雄は-50℃の寒さに耐えながら、雌がえさを持ち帰るまで何日も子どもを守り続けます。これは遺伝的プログラムに書き込まれた本能によるものです。しかし人類には子育ての遺伝的プログラムは存在しません。したがって、10か月も母親のお腹にいて、生まれても1年くらいは寝たきりの赤ちゃんをどう育てるかは、ひとえに学習によってプログラミングしなければなりません。しかもそれは、時には寒さと空腹で命を落とす雄ペンギンのように、強固なものではなくてはなりません。

神様は人が生きていくために心臓や肝臓や肺など、絶対的に重要な臓器を与えてくださいました。そしてこれらを健康に維持していくために神様は同時に口腔も与えてくださいました。でも口腔の機能、おっぱいを吸うこと以外は、食べるのは「自分で勉強してね」、「虫歯になっても知らないよ」といった具合で、そうならないように我々は多くのことを学ばなければなりません。

**口腔の健康は全身の健康を育み、その口腔の機能と環境の維持は唾液によって制御されていることが最近明らかになりつつあります。**歯は生命が宿って7週目に発生し、生後6カ月頃に宝石のように口腔に現れます。その間の口腔の成長と発育を学ぶことは、親と子の愛着形成につながる重要な子育てプログラミングです。

### <著書>



## ■モデレーター：沢井 佳子先生 略歴

日本こども成育協会理事 専門領域：子どもの認知発達（発達心理学）

チャイルド・ラボ所長

認知発達支援と視聴覚教育メディアのコンテンツ開発を専門とする。

お茶の水女子大学大学院修了、専攻は発達心理学、認知心理学。

幼児教育番組『ひらけ! ポンキッキ』（フジテレビ）の心理学スタッフ、お茶の水女子大学大学院研究員（総務省 e! school 研究）、静岡大学情報学部 客員教授 等を歴任。

テレビ番組、デジタルアプリ、絵本やワークブック、玩具等の教育・学習コンテンツの開発と監修に携わる。

マルチメディアの幼児教育シリーズ『こどもちゃれんじ』（ベネッセ）の「考える力」プログラム監修。幼児向け英語教材『Worldwide Kids』（ベネッセ）監修。幼児教育番組『しまじろうのわお!』（テレビ東京系列）監修（“Shimajiro: A World of WOW!”ハンブルグ2013ワールド・メディア・フェスティバル 教育部門大賞 受賞、国際エミー賞 2016 ノミネート、アジアテレビ賞2018 受賞、日本賞 2019、2021 幼児向け番組 優秀賞受賞）。

ハッピーセットの玩具（日本マクドナルド）監修。

著書は『6歳までの子育て大全』（編著／アチーブメント出版）ほか、『3さいの本』全8冊（講談社）等、幼児向けに監修した本やデジタルコンテンツは多数。

日本子ども学会 常任理事。みんなのケア情報学会 理事。人工知能学会「コモンセンスと感情研究会」幹事。BPO(放送倫理・番組向上機構)青少年委員会委員。



### <編著書>

